

母親および父親の自閉症傾向特性と乳幼児の 6 ヶ月と 12 ヶ月 ASQ-3 得点との関連性 — 子どもの健康と環境に関する全国調査 —

廣川空美

自閉スペクトラム症の子どもの近親者には、自閉スペクトラム症に行動や認知的特徴が類似した行動特性がみられることが指摘されています。このような自閉症傾向の特性は、自閉スペクトラム症と医師による診断がつくほどではありませんが、コミュニケーションに困難さがあり、社会的スキルが乏しいといった特徴があるとされています。

欧米の研究では、父親の自閉症傾向特性と子どもの発達との関連の強さが指摘されていますが、日本の研究では、母親の自閉症傾向特性との関連が示唆されており、一貫した結果は示されていません。日本では、母親が育児の大半を担い、父親の育児参加は欧米に比べて少ないことが明らかなです。父親の育児参加が子どもの発達に与える影響についても検証することが求められます。

本研究では、エコチル調査で得られたデータから、31,079 名の母親と父親の組合せを対象に、両親の自閉症傾向と 6 ヶ月と 12 ヶ月時の子どもの発達評価との関連を調べました。また、父親の育児参加による違いについても検討しました。その結果を専門誌 (International Journal of Behavioral Development, 印刷中) に発表しました。

自閉症スペクトラム指数 10 項目短縮版の得点に基づき、母親と父親の自閉症傾向の組合せにより、両親とも非自閉症傾向 (BAP なし)、父親のみ自閉症傾向 (父親 BAP)、母親のみ自閉症傾向 (母親 BAP)、両親とも自閉症傾向 (両親 BAP) の 4 群で子どもの 6 ヶ月時の発達評価と 12 ヶ月時の発達評価を比較しました。子どもの発達評価は、コミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人-社会の 5 領域について母親が行いました。発達評価は得点が低いほど専門家への相談が必要とされます。

子どもが 6 ヶ月時では、コミュニケーション以外の 4 領域で両親の自閉症傾向による違いが示されました (図 1)。子どもの粗大運動の得点は、BAP なし群に比べて父親 BAP 群で高く、微細運動、問題解決、個人-社会の得点は BAP なし群に比べて、母親 BAP 群で低いことが示されました。

12 ヶ月では 5 領域全てに両親の自閉症傾向による違いが示され (図 2)、子どもの粗大運動と微細運動の得点が BAP なし群に比べて父親 BAP 群で低いことが示され、コミュニケーション、微細運動、問題解決、個人-社会のいずれの得点も BAP なし群に比べて母親 BAP 群で得点が低いことが示されました。

さらに、子どもの性別ごとに調べると、父親の自閉症傾向は女兒のコミュニケーション、微細運動、問題解決、個人-社会の発達評価の低さと関連が見られました。また、父親が育児参加を積極的に行っていない場合、女兒のコミュニケーション、粗大運動、個人-社会の発達評価が低いことが示されました。

母親に自閉症傾向があると、子どもの発達評価が低くなる傾向がありますが、父親の自閉症傾向も子どもの発達に関連し、育児参加の積極性も関連する可能性が示されました。

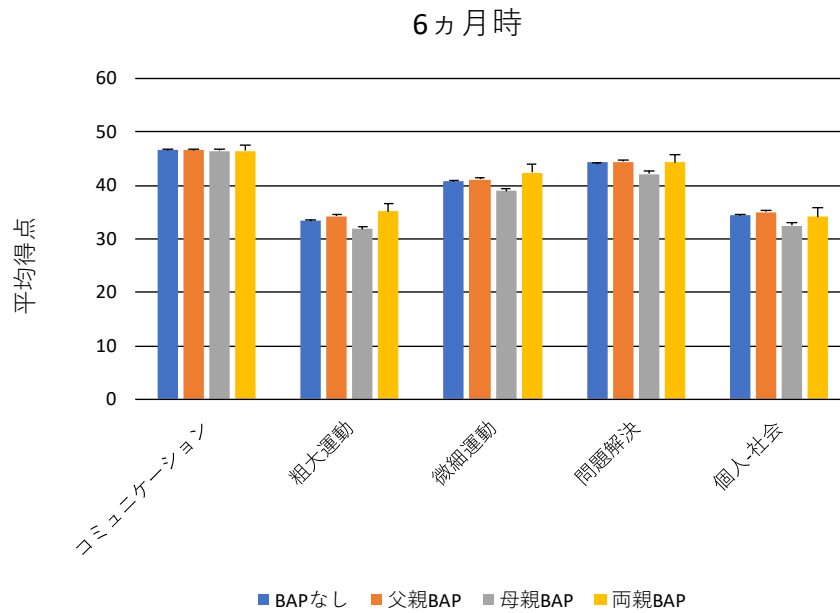


図1 両親の自閉症傾向(BAP)と子どもの6ヶ月時発達評価

BAP: 自閉症傾向

BAPなし n=28,261, 父親BAP n=2,001, 母親BAP n=742, 両親BAP n=75

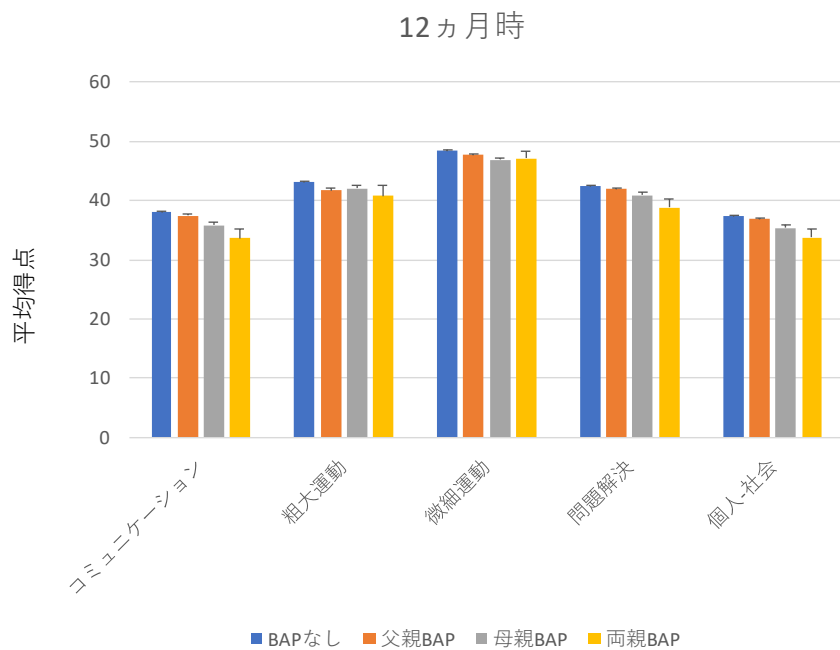


図2 両親の自閉症傾向(BAP)と子どもの12ヶ月時発達評価

BAP: 自閉症傾向

BAPなし n=28,261, 父親BAP n=2,001, 母親BAP n=742, 両親BAP n=75